

V 高知県安全教育プログラム（気象災害編）の基本的な指導内容

気象災害時の安全（知る・備える・行動する）

指導内容はあくまで基本的な内容です。どこにいてもどのような気象災害にも対応できるように、平野部や山間部、沿岸部を問わず、全ての学校で指導する必要があります。また、学校種や地域の特徴（気候特性、地理的条件）に応じて、さらに内容を加える必要があります。

知る・備える

- 「大雨をもたらす気象現象」**
- ・発達した積乱雲により、「局地的大雨」となる場合がある
 - ・「台風」は、激しい暴風雨をもたらす（長時間続く場合もある）
- 「大雨や台風による災害」**
- ・河川の急な増水、河川の氾濫による洪水、道路や家屋の浸水
 - ・台風による高波、高潮、暴風
- 「高知県で過去に発生した主な災害」**
- ・過去に高知県で起こった台風や豪雨等の災害を知る
- 「日頃からの備え」**
- ・非常用品の準備（懐中電灯と電池、ラジオ、食料、水等の確保）
 - ・ハザードマップ等で、地域の災害リスクや避難場所を家族全員で確認しておく

大雨・台風による災害

行動する

- 「災害の前兆を知る」**
- ・河川の増水に注意し、すぐに水辺から離れる
（ダムでの放流警報、川の状態の異変に注意）
 - ・平地では晴れていても、上流の大雨による急な増水もある
- 「情報の収集と適切な避難」**
- ・防災気象情報の意味を正しく理解し、適切に避難する
 - ・避難指示（警戒レベル4）があった場合は、慌てず速やかに避難する（忘れ物をして戻らない）外へ出ることが危険な場合は、家の2階等少しでも安全な場所へ避難する
 - ・台風が遠くても、高波や高潮に備え、海での活動は控える

「土砂災害から身を守る」

- ・土砂災害の前兆現象がみられたら、すぐに避難する（近所や役場への通報）
- ・雨量や大雨警報、土砂災害警戒情報に注意し、早めに安全な場所へ避難する

土砂災害

「情報の収集と適切な避難」

- ・屋外活動の前に、天気予報や雷注意報、ナウキャスト等の気象情報を確認する

「竜巻等の突風から身を守る」

- ・竜巻注意情報が発表された場合は空の様子に注意し、積乱雲が近づき兆しがあればすぐに避難する
- ・頑丈な建物の中に避難する（できない場合は、物陰やくぼみに身を伏せる）
- ・家の中心部に近い窓のない部屋に移動し、窓や壁から離れる
（窓、雨戸、カーテンを閉め、頑丈な机の下に入り頭と首を守る）

「雷から身を守る」

- ・雷鳴が聞こえたら、建物や自動車等の中へすぐに避難する
- ・木や電柱からは4m以上離れる（側撃雷の恐れがある）
- ・避難する場所がない場合は、姿勢を低くする

突風・雷による被害

- 「竜巻や雷の発生」**
- ・発達した積乱雲の下で「竜巻等の激しい突風」や「雷」が発生する
- 「竜巻による災害」**
- ・竜巻等の激しい突風は、季節を問わず全国各地で発生する
 - ・激しい突風により建物の倒壊、屋根瓦やテント等の飛散、電柱や樹木・遊具等の倒壊、飛来物の衝突等の危険がある
- 「雷による災害」**
- ・雷は周りにより高い所に落ちやすい（周囲が開けた場所は危険）
 - ・木や電柱等落雷を受けた物体から放電を受けることがある
（側撃雷）

大雪による被害

- 「大雪から身を守る」**
- ・気象情報を利用して積雪や凍結を予見し、転倒しにくい歩き方や車の動きに注意する
 - ・急な斜面、雪崩が発生しやすい場所には近づかない
 - ・雪崩の前兆を知り、速やかに避難する

- ・高知県での積雪による危険
- ・積雪、路面の凍結等による交通事故の発生
- ・斜面に積もった雪が滑り落ちる雪崩の危険